

代表からのご挨拶

サンライズ・メイト・バート株式会社
代表取締役 井上 明美



いつも皆様方には、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

風薫る新緑の季節、皆様におかれましてはお変わりございませんか。熊本県の大震災で皆様方が辛い思いのなか、余りに心無い報道に心が痛むのは私だけ

でないと考えます。被災された方々への過熱した報道は当事者様方に対して失礼ではないでしょうか。違う形で手を差し伸べられないのかと思います。私のご利用者様のご家族も自宅に余っているオムツを熊本市役所へ送ったとの話を聞くと・・・こういうお一人お一人の善意こそが大きな波となって広がっていく事を願って止みません。寒暖の差が大きい季節柄、なおいっそうご自愛ください。

サンライズの物語

身体が動かなくなっても感謝の気持ちを忘れない、
素敵なお利用者様に生き方を教えていただいた物語

その方は、若い時からご苦労され堅実にご自身の人生を送ってらした方でした。とても素敵なお方で、訪問するヘルパーとの出会いにいつも感謝の言葉を伝えている方でした。



ある日、訪問時体調不良で訪問できなくなったヘルパーに代わり私が突然訪問した時の事でした。連絡する間もなく訪問した私が謝罪すると、思いがけない言葉が返ってきました。

「私は自分で買い物へ行けないからヘルパーさんを頼んでいるのだから・・・誰が来てもありがたいのよ・・・来てくれて有難う・・・」

一面識もなく仕事で来ている私に向かって言ってくれた言葉に、感激した瞬間でした。担当の各ヘルパーよりご本人が素敵なお方だとの報告は受けておりましたが、一瞬にして人の心を魅了してしまうことのできるのは、ご苦労され、ご本人らしい人生を歩まれてきたからなのでしょう。

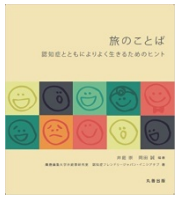
そんな中、何度か訪問する機会があり、訪問する度に若い頃の素敵なお話をされて、ますますその方の生き方に憧れていた矢先の時・・・

担当のヘルパーから訪問しても応答がないとの知らせに大家さんに鍵を開けて貰うと・・・その方は玄関先で倒れ息絶えておりました。常日頃から「誰にも迷惑は掛けたくない・・・病院へ入院したくない・・・」と仰っていた通り・・・自分の人生を全うされたのだと思い、涙が零れ止まらなくなった事を思い出します。

身体が思うように動かなくなっても感謝の気持ちを忘れずに何時も素敵なお笑顔でいる事の難しさ・・・誰もが真似できることではありません。ご利用者様と出会い、お一人、お一人に人生に生き方を教えて頂いた事は介護職に携わることができた私達の宝であると感謝しております。

「旅のことは 認知症とともによりよく生きるためのヒント」 「旅のことはカード」

丸善出版刊 著者：井庭崇／岡田誠



本書は、誰もが避けてはとおれない認知症生活を旅にたとえ、本人、家族、みんなの立場から、認知症であってもいきいきと前向きに過ごしている方々の秘訣を40個にまとめたものです。それぞれの秘訣・ヒントが「ことば」として日常会話で使えるように紹介されているため、簡単に日々の生活や会話、考え方の中に取り入れることができます。「旅のことはカード」は、旅のことはの内容を複数人で話し合っ意味を読み深めたり、意見や関連する経験談を交換したりするワークショップに使用したり、また気に入った工夫をいつも目に付くところに置いておく等の用途に使うことができます。「旅のことはカード」は、「オレンジアクト認知症フレンドリーアワード2015大賞」、および「2015年度グッドデザイン賞」を受賞。

NEWS 今月のニュース

育児や介護の悩み話そう 高知県に「ケアラズカフェ」

育児や介護をする人が交流できる「ケアラズカフェ」がこのほど、高知県幡多郡黒潮町入野に開店した。「smile（スマイル）」の名称で、店主は子育てと認知症の母親の在宅介護を続ける岩本仁美さん（32）＝黒潮町浮鞭。「ちょっとした悩みでも話して、気持ち切り替えて」と来店を呼び掛けている。

「ケアラー」とは子育てや親族の介護をする人を指す。カフェは、土佐くろしお鉄道土佐入野駅から黒潮町役場方向に徒歩ですぐの場所に4月にオープンした。店内には子どもが遊ぶスペースやベビーベッドのほか、介護制度の資料なども置いている。

「子どもの泣き声や、お年寄りの食べこぼしを気にしなくても大丈夫です」。そう話す岩本さんは、2児を育てながら認知症でほぼ寝たきりの祖母（90）の世話をしている。育児と介護の「ダブルケア」の状況になって9年になるという。

子育てに加え、知識が全くない介護に最初は戸惑った。友人と会う時間は減り、睡眠不足や行き詰まった気持ちに悩んだが、ママ友ができるにつれ気持ちが楽になったという。

そんな経験から、似た状況の知り合いがいる大切さを実感してきた。「家の外で話ができる場所は大切。第三者にだから言える“もやもや”もあると思う」と、育児に少し余裕ができた2015年、カフェの開設準備を始めた。営業



時間中、母親は町内の民間施設のデイサービスに預けることにし、入野の空き事務所を借り、開店にこぎ着けた。

岩本さんは「若い世代でも介護や育児に悩む人はいるはず。何も分からず行政に相談するのは勇気があるので、役場に行く前に寄ってもらえたら」と話している。

メニューには日替わりランチ、黒潮町名物「カツオたたきバーガー」などが並ぶ。

<高知新聞2016年5月21日(土)>



今月の名言

描くのをやめる。散歩をしたり、景色をみたり、昼寝をしたり、何もしない。そのうち急に描きたくなるんだよ。

ウルスラ（映画「魔女の宅急便」）

スタジオジブリ制作の、魔女となった少女の成長を描いた名作「魔女の宅急便」。急に魔法が使えなくなり苦悩する主人公・キキに「スランプになったらどうするのか」と聞かれた友人の絵描き・ウルスラの台詞です。迷ったらいったん足を止めて、離れてみるのもひとつの方法かもしれませんね。

広報誌「ライジング・サン」のバックナンバーは、弊社ホームページでもご覧いただけます。

ぜひお立ち寄り下さいませ。 <http://www.samaba.jp/back-number/>